

令和6年9月19日

浦添市議会議長 殿

建設委員会  
委員長 護得久 朝文

### 建設委員会視察報告書

令和6年7月8日から令和6年7月10日まで、委員会視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

#### 記

- |         |                                      |
|---------|--------------------------------------|
| 1 視察期間  | 令和6年7月8日（月）～令和6年7月10日（水）             |
| 2 視察場所  | 宮城県仙台市 宮城県岩沼市                        |
| 3 視察項目  | 東日本大震災後の取り組みについて<br>岩沼AI乗合バス運営事業について |
| 4 視察参加者 | 護得久 朝文 儀間 光秀<br>亀川 雅裕 下地 恵典          |
| 5 調査内容  | 別紙のとおり                               |

視察日	令和6年7月9日(火)
視察先	宮城県仙台市 人口 1,061,450人 (令和6年4月1日現在) 市面積 786km <sup>2</sup> 議員定数 55人
視察市の概要	
仙台市は北緯38度付近と比較的高緯度に位置しているが、仙台湾に面した海洋性気候のため寒暖の差の少ないのが特徴。1年の平均気温は13℃前後で、季節の区分ははっきりしており、四季折々に彩りを変える豊かな自然を市民に潤いを届けている。地形的には、西は奥羽山脈から東は太平洋の仙台湾までの広がりを持ち、周囲は12の市と町に接し、786.35km <sup>2</sup> におよぶ大きさである。	
調査項目	
東日本大震災後の取り組みについて	
調査理由	
我が市においてもいつ起こるか予測ができない自然災害に対しての対策を策定する必要があると考えたため視察を行った。	
調査内容	
(1) 東日本大震災の復興状況と取り組みについて (2) 今後の課題等について	
考察	
<ul style="list-style-type: none"><li>・死者数及び避難者数、家屋や公共施設の被害状況が想像を絶するようなものであった。</li><li>・震災廃棄物に関しては、仙台市の7年分のごみの量に相当する量が出た。仙台方式（自己完結型）として東部沿岸地域に3か所の搬入場（計100ha）と仮設の焼却炉を設置。搬入場ではコンクリートや家電、木類など10種類以上に細かく分別した。震災廃棄物は道路等の盛土材に再利用し、目標のリサイクル率50%を達成した。</li><li>・津波シミュレーションの中では、完全に防災はできないので減災を中心に取り組みと説明があった。1つ目は、多重防御として海岸堤防再整備、防災林再生、県道かさ上げなどによる津波減災。2つ目は、避難として「逃げる」ことを重視し、避難の丘や避難施設、避難道路などを整備。3つ目は、移転として安全な内陸への集団移転による「総合的な防災対策」を対策の一つとして上げていた。</li><li>・宅地被害復旧・支援事業の取り組みの説明もあった。</li><li>・いつ起こるか分からない災害に対して、早急に対応策を策定する必要があると感じた。</li></ul>	



視察日	令和6年7月9日(火)
視察先	宮城県岩沼市 人口 43,387人 (令和6年3月31日現在) 市面積 60.45km <sup>2</sup> 議員定数 16人
視察市の概要	
岩沼市は、宮城県南部に位置し、仙台市の南17.6km、東経140度52分、北緯38度6分にあり、東西約13km、南北約10km、総面積60.45km <sup>2</sup> で西部は丘陵が起伏し、東部太平洋との間には平野が展開、南部には一級河川である阿武隈川が東流している。また、JR東北本線と常磐線の分岐点、国道4号と6号の合流点にあたり、仙台東部道路岩沼ICや仙台空港が所在するなど交通の要衝でもある。	
調査項目	
岩沼AI乗合バス運営事業について	
調査理由	
岩沼市は、市民バス、デマンドタクシー、AI乗合バスの公共交通機関を行っており、市民ニーズに対応している。当市においても市民よりうらちゃんminiの再運行の要望もあり、また高齢者等の交通弱者の救済、その他についてもメリットの多い事業であるため視察を行った。	
調査内容	
(1) 岩沼AI乗合バスの概要について (2) 岩沼AI乗合バスの実証運行の内容について (3) 岩沼AI乗合バス運営事業で見込まれる効果について (4) 今後の課題等について	
考察	
・岩沼AI乗合バスの説明を受け、市民バス、デマンドタクシー、岩沼AI乗合バスが連携し、市民ニーズに対応している。 ・岩沼AI乗合バスは今年から本格運行でまだ手探り状態であるような印象であった。 ・この公共交通が連携する中で、どのような費用対効果が出るか、まだ分析の途中と説明があった。 ・今後当市において交通弱者の視点から、公共交通機関とのさらなる連携を図り、市民ニーズに答える必要がある。	

